

第3学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水) 1校時

学 級 3年2組(男子19名 女子13名 計32名)

会 場 1F 大ホール

指導者 佐野 勁吾

1 主題名 心から信じ合える友を【B(8)友情、信頼】

教材名 「ライバルどうしの友情—スピードスケート 小平奈緒と李相花」(出典:東京書籍「新しい道徳3」)

2 主題設定の理由

(1) 生徒について

本学級の生徒は、男女共に仲がよく、日常生活や行事を通して、何事も学級の全員で力を合わせて、乗り越えたり、高め合ったりしていこうという気持ちをもって生活している。また、時間をしっかり守ることや話を聞く態度など、基本的な生活習慣を大切にしている。しかし、親しい部分もあるが、意見が割れることや対立することを恐れ、自分の意見を上手く言えないでいる生徒が見られる。

そこで、本教材を通して、友情の在り方について考えさせ、同じ目標に向かって努力を続け、切磋琢磨し、同じ時間を共有した仲間だからこそ、分かり合える気持ちがあることに気付かせたい。その一方で、自分の夢が叶ったときや努力が実ったときに、相手は「夢が叶わず、努力も実らなかった」という対極にいる二人の間にも、友情が成立し、互いに敬愛の念をいだき合うことを知ることで、今後生活する上で、本当に信頼して分かり合える友達をつくっていこうとする心情を育てたい。

(2) 道徳的価値について

本授業は、中学校学習指導要領における内容項目B(8)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」に基づいて指導するものである。

真の友情は、お互いに変わらない信頼があって成り立つものであり、そのためには相手に対する尊敬や親しみの心をもつことが必要である。友情は、困難を共に乗り越えていくことで育まれていく。自分が傷つくことを恐れ、相手に合わせるだけでは真の友情は育まれない。相手のために思って、相手が本当につらいときに相手が何を望んでいるのかを考え、助け合える関係を築ける力を身に付けていかなければならない。

(3) 教材について

本教材は、平昌オリンピックスピードスケート女子500mで金メダルを獲得した小平奈緒と、銀メダルを獲得した李相花の友情の物語である。幼い頃から小平選手にとって、李選手は憧れの存在であると同時に目標であった。大会を重ねるごとに二人は競い合い、切磋琢磨し合う中で友情を育んでいく。そして、李選手の母国で行われた平昌オリンピックで、ついに小平選手が李選手をおさえて金メダルを手にする。小平選手は銀メダルに終わって泣きじゃくる李選手にそっと寄り添う。導入では、自分自身が金メダルを獲得すれば、相手は金メダルを獲得することができないという、共に喜びの瞬間を味わうことのできないライバル関係に両選手があるという点に焦点を当てる。その後、競技後に小平選手が李選手に向けた「チャレツン」(よくやったね)という言葉から、同じ苦しみを知るライバル同士だからこそ、相手に敬意を示し信頼し合うことで、友情を深めていくことができるということに気付かせ、その価値について自分自身の中で理解を深めさせたい。

3 主な教育活動との関わり

活動	時期	内容
保健体育	3学年	文化としてのスポーツの意義（体育理論）

4 本時の指導

(1) ねらい

大会を重ねるごとに競い合い、切磋琢磨し合う中で友情を育んでいった二人の登場人物の関係を通じて、友情と信頼の意義を理解し、真の友情とは何かを考え、友情を深めようとする心情を育てる。

(2) 研究内容との関わり

研究の手立て	具体的内容
① 生徒が本音を表現するための発問、ツール、学習形態の工夫	・両選手が平昌オリンピック前に置かれていた状況を整理して提示するとともに、オリンピックの映像を見せることで、生徒が両選手の気持ちをより実感をもって想像できるようにする。
② 中心発問から逆算した授業づくり	・「チャレソ」という言葉に焦点を当て、その意味を基本発問で深めていくことで、その言葉を小平選手が李選手に言うことができた理由について中心発問で迫る。

(3) 評価の視点

自分自身が金メダルを獲得すれば、相手は金メダルを獲得することができない、共に喜びの瞬間を味わうことのできない関係にも友情は成立することに気づき、自分の見方・考え方を深めている。

(4) 展開

段階	学習活動と主な発問 (◎中心発問 ○基本発問 ◇補助発問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点（・） 評価（□）
導入 10分	1. 小平選手と李選手の状況を確認する。 ○ライバル同士で友情は成立すると思うか。	・成立する。 ・成立しない。 ・わからない。	・それぞれの選手の置かれている状況を整理して提示する【手立て①・②】。
展開 35分	2. 「チャレソ」（よくやったね）の言葉の意味を考える。 ・実際の映像を見る。 ○負けが確定した直後に「チャレソ」（よくやったね）と言われたら、自分だったらどう思うか。	・嫌みに聞こえる。 ・ムカつく。 ・あおっているように聞こえる	・臨場感が伝わるように、平昌オリンピックの動画を見せる。 ・マイナスのイメージを印象づける【手立て②】。

<p>展開 3 5 分</p>	<p>○「チャレッソ」(よくやったね)と言われたのに、一緒に滑って笑顔で小平選手を称えているのはなぜか。</p> <p>◎また、嫌みと思われるかもしれない「チャレッソ」(よくやったね)を、小平選手が言えたのはなぜか。</p> <p>・他のライバルたちの動画を見せる。</p> <p>3. 友情を深めるために大切なことについて話し合う。</p> <p>○ライバルどうしの友情はなぜ成立するのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しかった。 ・頑張りを認めてもらえた。 ・悔しいけど、嬉しい。 ・ありがとう。 ・負けたけど、気持ちが晴れた。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、一緒に戦い合ってきたから。 ・努力を称えたいから。 ・心からのお疲れさまの気持ちから。 ・プレッシャーと戦ってきたから。 ・最後まで諦めず、滑り続けたから。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに尊敬し合っているから。 ・一緒に頑張ってきたから。 ・本当に相手のことを思って行動しているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小平選手と李選手の笑顔や称え合っている姿から、マイナスのイメージではないことに気付かせる【手立て②】。 ・ここでは、マイナスなイメージをなくすようにする。 ・お互いの尊敬があるからこそ言葉ということに気付かせる。 ・各選手の状況を説明し、さらに理解を深める。
<p>終末 5 分</p>	<p>4. 本時の授業を振り返る。</p>		<p>□道徳的価値の理解を自分自身の中で深めているか。</p>
<p>【振り返り(感想)文例】</p> <p>「同じ苦しみを感じた者同士だからこそ分かり合えることがある。」</p> <p>「勝敗にかかわらず、互いに尊敬しあうことで、友情が育まれることを知った。」</p> <p>「ときに自分のことよりも、相手のことを考えて感情を抑えることも必要なんだと思った。」</p> <p>「本当に相手のことを思って行動することが、大切であると思った。」</p>			

